2022年3月３１日

保護者　様

あおぞらキンダーガーデン

あおぞらキンダーガーデンでは、静岡市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例に基づき、２０２１年度の自己評価と保護者評価を行いましたので下記の通りご報告いたします。

２０２１年度　自己・保護者評価報告書

１　あおぞらキンダーガーデンの保育目標及び本年度の重点目標

○　子ども像　１　自分を大切にし、仲間と共に育ち合う子ども（自己肯定感と他者理解）

○　保育目標　１　自分を大切にし、仲間と共に成長する
２　まわりのものに深い関心を寄せ、感動できる
３　じょうぶな体をもつ
４　自分の発見や考えを豊かに表現できる

これらの目標を達成するために、「乳幼児理解と育ちの記録・あそびの考察」「生活の充実」を研究テーマとし、保育の充実・向上を図ることを重点目標とします。

２　評価項目の及び取組状況（A＝よくできた　B＝ふつう　C＝できなかった）

（1）　保育

日常の保育を丁寧に、充実して実践を重ねることを大切にしてきました。そのための研究システムを作り、職員全員で「実践、分析、討議」を大切に研究し、子どもの育ちが豊かになる保育を創ってきました。

評価項目	自己評価	取組状況
①幼児理解を深めるための視点の学習	A	実践を持ち寄った毎月の学習会での分析・討議・まとめを繰り返す中で、深くこども理解と実践を深めました。
②保育環境研究	A	「保育環境」をつくることが保育実践では重要です。子どもの願いをくみ環境整備をする中で保育環境について学び、改善を進めました。
③具体的な保育内容を考える	A	毎月の学習会は、実践記録を持ち寄った学習会で、日常の子ども理解を深めてきました。保育問題研究会全国大会に実践を提出し保育内容の充実を図りました。
④保育課程を見直す	A	毎月の実践検討会で見いだされたことを保育課程に照らし合わせ、年１回、保育課程の見直しをしました。
⑤保育の様子や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝える	A	クラス便りを子どものつぶやきを中心に、保育の様子、子どもの様子、保育者の考えが伝わるよう、随時発行しました。保育参加・懇談、行事等に子どもや保育について分かりやすい言葉で伝えることに心掛けました。連絡帳の活用や送迎時などに積極的に会話をすることを心掛けました。園だよりを定期に発行しました。ホームページは随時更新しました。

（2） 運営

評価項目	自己評価	取組状況
①教職員体制の改善、向上	A	正規職員・パート職員・職種に関係なく“子どもの最善の利益”をもとめる教職員集団をめざして学習・運営をすすめています。
②保育環境の改善、向上	A	保育実践実現のための室内外（5歳児クラスの雲梯、砂や土の補充，3，4歳児クラスの裏の出入り口、乳児クラスの下駄箱、実のなる木の植樹など）の設備の充実・安全点検を進めて、園庭や室内の環境づくりを随時整えてきました。
③運営全体について	A	１１月 １１日静岡市の監査において、特に大きな改善事項はありませんでした。

２０２１年度　あおぞらキンダーガーデンに関するアンケート」の報告

実施した標記のアンケート結果について下記のようにご報告いたします。今後の保育活動の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(配布枚数８０　回収枚数５９　回収率７３．８%)

	はい	どちらでもない	いいえ
ア　お子さんは保育園に通うのを楽しみにしていますか	５６人（７０%）	１人（1，3%）	２人（2．5%）
イ　お子さんが「成長したなあ」と感じることがありますか	５８人（７２．５%）	０人（０．０%）	１人（１．３%）
ウ　お子さんは基本的な生活習慣が身に付いたと思いますか	５８人（７２．５%）	０人（０．０%）	１人（１．３%）
エ　保育園や職員に子育ての悩みや疑問を相談しやすいですか	５６人（７０%）	０人（０・０%）	３人（３．８%）
オ　連絡帳、おたより、懇談会、相談などを通して保育やお子さんの園生活は分かりやすいですか	５８人（７２．５%）	０人（０．０%）	１人（１．３%）

３　今後取り組むべき課題

アについて	子ども一人一人の状況をつかみ、楽しく登園できるように家庭との連絡を密にしていく
イ、ウ、エ、オについて	子どもの「ありのまま」の姿に共感し、子どもとともに創る保育を実践する中で、親との信頼関係・ネットワークを構築し、子育てのパートナーになる様に、保育を進めていく

子どもを取り巻く状況が厳しくなる中、社会みんなで子どもを育てると言う暖かな環境は難しく、子育ての自己責任・孤立化が進んでいます。子どもを育てるには、一人ではできないのが人間の子育てです。園では、子どもと親の理解を深め、集団保育場面のより専門的な保育の知識や方法を構築することが求められています。来年度も、あおぞらの歴史の中で大切にしてきた実践の中核を確認し、理論と実践を深め、子どもの心身の発達を促し、体と心の主人公になる保育実践を進めていきます。